

日本ハリストス正教会教団 西日本主教教区報

西日本正教

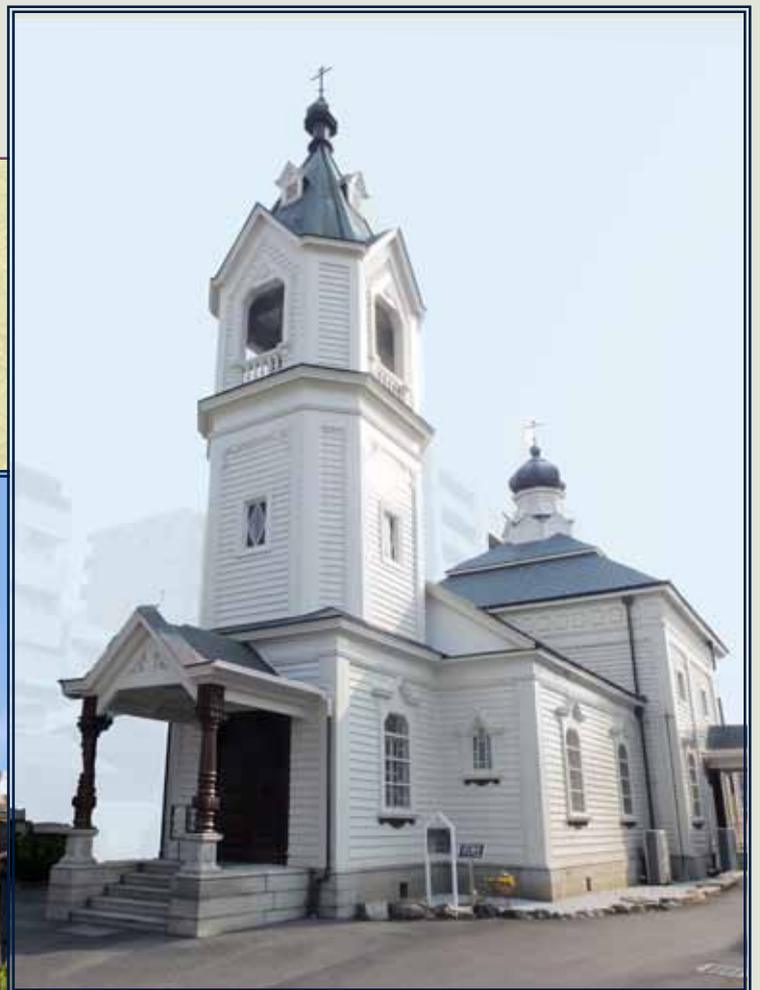
No.140
Summer, 2016

西日本主教教区宗務局

604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283
京都ハリストス正教会内
電話・FAX (075)231-2453 Email: ocj_kyoto@yahoo.co.jp
郵便振替 01030-5-18547

聖堂修復

大阪 生神女庇護聖堂



京都 生神女福音大聖堂

内 容

西日本主教教区 教区会議報告、全国公会報告
エッセイ「だからキリスト教には喜びがないんだ」
京都修復成聖式報告、西日本主教教区ニュース
宣教献金芳名録 主教区 活動のご案内

西日本主教教区会議

6月19日

(大阪)

六月一九日(日)ダニイル府主教座下
ご臨席のもと、西日本主教教区「教区会議」が大阪正教会、生神女庇護聖堂、大阪会館ホールを会場に開催されました。

司祭会議・教区理事会

教区会議開催に向け、一七日(金)午後一時半〜司祭会議開催。一八日(土)午前司祭会議、午後一時会計監査、二時〜理事会。理事会では、ダニイル府主教座下のお言葉、過年度と新年度の業務報告・計画(及川)、献金委(松島師)、諸規則検討委(後藤師)、決算報告(教区センター含)・監査報告・予算案の説明・承認(佐藤財務部長)、教区宣教献金の概要・御礼、熊本地震への義援金についての説明と御礼が述べられ、これらすべてを原案どおり本会議にかける事が決議されました。

教区会議 新年度教区活動と懇親会

一九日(日)午前聖神降臨祭聖体礼儀、昼食後一四時〜本会議。議長ダニイル府主教座下のもと副議長に松島師・佐藤孝雄兄ほか議事役員の選任のあと議事進行。ダニイル座下の「奉神礼」についての訓話後、理事会から上程された過年度と新年度の業務報告・計画、教団三委員会報告、財務部長から決算報告(教区センター含)・監査報告・予算案の説明と承認、宣教献金の御礼などと質疑応答がありました。熊本地震義援金について感謝と御礼が局長より述べられました。各教会、信徒の皆様御篤志に深く感謝申し上げます。

教区センター成聖記念連続講演会の継続、教区協賛行事としての夏休み会、秋に開催予定の京都聖堂文化財特別公開を機とした宣教企画、広島地区集会の後援、冬季セミナー、『聖書概論・教会史』の出版、『西日本正教』年二回発行、宣教冊子、宣教献金キャンペーン(11月)などが活動計画に盛り込まれました。最後に七月の全国公会代議員が選任され四時に会議終了、記念写真。懇親会は大阪婦人会による温かなおもてなし。広大な西日本各地から集った信徒の皆様、ありがとうございました。(及川記)





全国公会

7月9・10日 (東京)

七月九日(土)

東京ニコライ会館において、一三時半開会祈祷、ダニイル府主教座下の開会宣言により一六年度全国公会を開始。議長ダニイル座下のご指名により、副議長・書記・議事録署名人・議事運営委員等が選任されました。引き続きダニイル座下の訓示、教団活動報告(宗務総局長サワ大浪師)、全国宣教企画委員会、献金委(松島師)、諸規則検討委(枅田師)があり。献金委員会は教団委嘱による「財務諮問委員会」に改称されました。夕方六時から東京復活大聖堂で晩祷が執り行われました。

十日(日)

ダニイル府主教座下、セラフイム大主教座下、全国の司祭が陪祷する主日聖体礼儀の小聖人に際し昇叙式が行われ、ワシリイ加藤師が長司祭に昇叙され飾十字架・パリツアの佩用を祝福されました。また聖体礼儀に先立って副輔祭・誦経者の祝福式で山手のエリセイ宮野兄、大阪教会出身のソロモン川島兄が誦経者に祝福されました。領聖後、教役者記憶パニヒダが執行されました。

昼食後、公会第二日目の日程案に沿って議事が再開され、過年度決算報告(小島財務部長・監査報告後、予算案が上程されいづれも全会一致で承認。その後古川教会の解散と中新田教会との合併が報告され、熊本地震災義援金御礼、会計監査の選任、人事異動の発表と議事が進み、セラフイム座下の閉会の言葉・閉会祈祷、祝賀

会をもって公会は無事終了しました。遠く西日本から出席された皆様、猛暑の中ありがとうございました。(及川記)

教団人事異動

宗務総局長任命

前総局長 長司祭サワ大浪佑二師(八二歳)高齢による役職辞退の申出を受け長司祭イサイヤ酒井以明師(豊橋)を任命。大浪師の功勞に感謝。「幾歳も！」

長司祭昇叙

飾十字架・パリツア佩用

副輔祭・誦経者祝福

ワシリイ加藤 國枝師(仙台)

エリセイ宮野 健次兄(山手)

誦経者祝福

ソロモン川島 大神学生(東京)

正教神学院新卒業生

ワシリイ 杉村 太郎兄(三六歳) 輔祭・司祭叙聖を経て九州管轄区の副司祭に、京都正教会での研修後、人吉正教会に今秋赴任予定(人吉、鹿児島、熊本、福岡)

ガヴリイル 田中 和幸兄(三七歳) 東京復活大聖堂の伝教者、輔祭叙聖・司祭叙聖を経て、今年度冬頃に静岡正教会に赴任予定

教団職員に配置転換(異動)

クリメント 北原 史門兄

「だからキリスト教には喜びがないんだ」

司祭 ゲオルギイ松島雄一

「誰でもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、私に従ってきなさい」(マルコ8・34)

これを聞いて吐き捨てるように言った人がいました。

「だからキリスト教には喜びがないんだ」。

自分を捨てることほど「非人間的」なことはないんだそうです。

たしかに「滅私奉公」というスローガンで無数の人たちがお国のため、会社のために「自分を捨て」させられました。戦争で犠牲になり、会社のために心身をすり減らし「何のために死ぬんだろう、何のために働いてきたんだろう」と愕然としながら、ぼろ切れのようによろめき伏しました。また女たちは、滅私奉公に駆り立てられる夫や息子たちを文字どおり自分を無にして支え、たくさんのことを耐えました。ここにも滅私奉公があります。しかし戻ってきたのはたった一枚の戦死公報であり、社長名で届いた事務的な弔電一つ。

だから私たちは「滅私奉公」は大嫌いです。

自分を捨てる？ふざけるな！ たった一度の人生、これからは自分のために生きるんだ。何のためであれ自分は犠牲にはしない、自分が好きなように、自分が望むように生きて何が悪い。これが私たちの思いです。そしてこんな私たちの子供たちは、個性や能力をのびし、思いや感情を押さえつけず、自分に正直に生きるのが「人間的」と信じ、自己実現という言葉が大好きです。自分を捨てることほど「非人間的」なことはないのです。

もちろんハリストスは国や会社のために自分を捨てるとは言いません。ご自身のため、神のために自分を捨てよと言うのです。しかしそれでも自分を捨てることにかわりありません。だからやっぱり、嫌いですか。

嫌だったら考えてみてください。私たちの生きる苦しみて何で

しょう？

自分の望み通りにならない、欲しいものが手に入らない苦しみ、自分をわかつてもらえず、受け入れられない苦しみ、自分の誇り(プライド)が傷つけられる苦しみ、自分が愛されない苦しみ…、極めつけは現代の若者に多い「自分が何を求めているのか、何がしたいのかわからない」

苦しみです。自分、自分、自分です。みんな自分にしがみ

つくところから生じる苦しみです。もちろん器用に

感情をコントロールしてこの苦しみと正面衝突

しないでずんでいる人も中にはいます。で

も、そんな人でも、究極において「自

分がすべて」なら、生きること

は「さておき、生きることの総決算

である死ぬことは苦しいで

すよ。自分という「すべて」

を失うんですから、自

分を捨てない限り人

は安らかに死ぬこ

とすらできません

ん。



わかりました、捨てましょう。もちろんハリストスのために。では、
どのように?...ハリストスとともにです。

自分を捨てるには勇気がいります。未知のことですから。この世の
人々は他の人に自分を捨てさせても、自らすすんで自分を捨てること
は知りません。だからこそ、神が人となり、まず自ら十字架にご自身
をお捨てになりました。自分は神だ!と言いつのりませんでした。自
分を救うために天使の大群を呼んで「神の自己実現」を見せびらかそ
うとはしませんでした。

私たちが自分を捨てるとき、その勇気が必要なとき、このお方がご
一緒です。私たちが小さな十字架を背負うとき、このお方も共に背負っ
てくださいます。

そして主ご自身が次のように言うのを聴くとき、私たちにはどのよ
うに自分を捨てるかももう迷う必要はありません。もう迷いのなかに逃
げ込めません。

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛
はない」(イオアン15・3)。

私たちは目に見えない神に、目に見えない敬虔な「思い」や「感情」
を献げて、自分を捨てるではありません。目に見える共に生きる人々
のために実際に自分の時間や、自分の持ち物や、自分の骨折りを献げ
て自分を捨てるのです。家族だからではなく、同僚だからではなく、
同国人だからでなく、すべて「ハリストスがその人たちのためにいの
ちを捨てた、そのためにご自身を捨てた」人々だからです。

そしてここで、この世が「言葉のあやにすぎない」とがんに認め
ようとしない一つの逆転が生じます。その逆転はもう私たちクリス
チャン一人一人が、その生きる姿を通じて証しするほかないものです。

「自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、福
音のために、自分のいのちを失う者はそれを救うであろう」(マルコ
8・35)。

+ΠΡΟΜΗΝΕ ΗΔΗΝΕ.
ΣΙΕ ΕΣΤΙ ΠΑΛΟ ΜΟΕ.
ΕΧΕ ΖΑ ΚΑΙ ΛΟΜΙΜΟΕ.
ΚΟ ΩΣΠΑΒΑΝΙΕ
ΓΡΑΧΟΚΖ

小さな憎しみ

を捨てた時、小さ

な和解ができた時、

小さな愛のわざをな

した時、小さな怒りの

火を消したとき、私たち

のうちに喜びがないでしょう

か。そのとき、あきらめたはず

の自己実現がそこにないでしょう

か。

それぞれに十字架を背負う者が、それぞ

れ「自分の時間」を捨てて集い、互いが互いの

ために生きることを励まし合い、心を一つに声をあげ、

私たちすべてのためにいのちを捨てたお方のお体を分かち合

う、ここに喜びは、光は溢れていないでしょうか。

そう聖体礼儀です。



各地の大斎、受難週、復活祭から

復活祭前に聖傳機密



京都教会、神戸教会で大斎期、受難週にそれぞれ聖傳機密が行われました。両教会とも昨年から行われるようになりましたが、今年も外国出身信徒を中心に多くの方が聖傳機密を受けられました。イアコフ書には次のように書いてあります。「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。」(5・14、15) ハリストスの癒しは体の癒しだけではなく、魂の癒し(罪の赦し)にまで及びます。そのため大斎や受難週間に、聖堂に体の健康な人も病気をかかえる人も皆集まって、聖傳機密を受けることはとても良い正教会の習慣です。私たちの信仰が深められるよう、来年も多くの方がこの機密に与ることができるよう願っております。(後藤記)

新司祭大斎研修

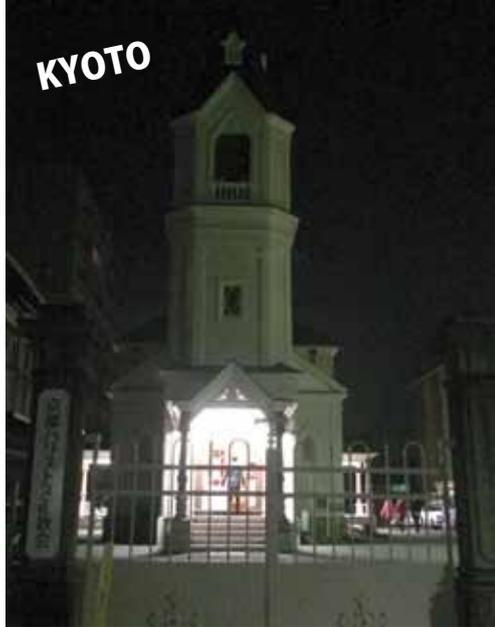
昨年10月11日、京都教会生神女福音聖堂で司祭叙聖されたグリゴリイ伊藤慶郎神父は、大斎初週の火曜、水曜(3月15・16日)大阪教会にて松島神父の指導の下、大斎研修のため晩堂大課と早課、先備聖体礼儀を執行されました。また徳島の新司祭ナファナイル小川卓神父も、地元徳島教会にて、御尊父のグリゴリイ小川公神父から親しくご指導をお受けになりました。



受難週

各教会で受難週の祈禱が行われました。大阪教会では29日金曜日の午後、聖大金曜日の祈禱の間をぬって、こどもタマゴ染め会が行われました。信徒子弟だけでなくインターネットで探してきた外部のこどもたち三人も仲良くタマゴ染めに興じました。タマゴのラップフィルムは、ロシア人信徒のご好意で取り寄せられました。





KYOTO

真夜中の復活祭

西日本主教区では、六つの管轄司祭常駐教会のうち五教会で、いろいろな悪条件を乗り越え、今年も正教会伝統の深夜の復活祭を祝うことができました。他の教区では信徒高齢化などにより、深夜の復活祭が多くの教会で断念されてきていることを思うと、神のご加護に感謝するばかりです。

京都教会では管轄のパウエル及川神父が突

暗闇の中、聖堂だけが光り輝いている——神の国のかたどり



OSAKA



然のご病気で倒れるという事態（現在はすっかり快復されました）で、復活祭の執行自体が危ぶまれましたが、東京復活大聖堂教会より、聖枝祭聖体礼儀にはイオアン小野神父、復活祭にはパウエル中西神父が上洛し、深夜の復活祭を喜びの内に祝うことができました。ご配慮いただいたダニール府主教座下と両神父に感謝！



十字行——未明に墓を訪れ復活が告げられる 福音は各国語で読まれる——世界に宣教された



NAGOYA



タマゴやケーキの祝福



TOKUSHIMA



KOBE



KOBE

復活祭のトロパリも各国語で

KYOTO

祝讃 京都生神女福音大聖堂 修復成聖

それから彼はわたしを東の方に向いている門に導いた。
見よ、イスラエルの神の栄光が、東の方から到来しつつあった。
その音は大水のとどろきのようであり、
大地はその栄光で輝いた。(旧約聖書 エゼキエル書43章参照)

五月二日(土) 二三日(日) 京都生神女福音大聖堂修復成聖式が挙行されました。西日本主教区の主教座聖堂(京都市文化財指定)ということもあり、ダニイル府主教座下はじめ学院グラシム師、大阪の松島師、名古屋の伊藤師、武井輔祭、高橋副輔祭、田中・川島両神学生、教区の多くの信徒の皆様と、いっしょに祈ることができました。

晩祷

二二日(土) 一七時〜伊藤慶郎師・武井徹輔祭により晩祷。奇蹟者聖ニコライ祭を併祭のためリテイヤを執行(一五人)。そのあと夕食会。

聖堂成聖と主日聖体礼儀

二二日(日) 朝九時〜奉献礼儀・痛悔機密、一〇時府主教座下入堂式。府主教祭服着装。三時課後、聖堂成聖祈禱。府主教座下が聖水、司祭が香油で祝福し、聖堂内〜外周を一周する十字行。みんなで聖歌を合唱しつつ祝福しました。聖体礼儀ではグラシム師が説教(ロシア語と日本語)。ダニイル座下より祝辞と記念品、美麗な奇蹟者聖ニコライの聖像が贈呈されました。

記念祝賀会

午後の祝賀会には、京都府文化スポーツ部 文教課長・市文化財保護長ら三人・仲和建設 北尾社長ら二人、町内会長はじめ町内の皆様もご出席くださり、それぞれから祝辞をいただきました。毎年三月に町内会総会を西日本教区センター(京都會館)で行い親交を深めてきた六丁目町内会は、回覧板をまわして二二日のご案内をしてくださいました。佐藤孝雄執事長の謝辞のあと、さいごに「幾歳も」を合唱し閉会。成聖祈禱・聖体礼儀参拝者八七人、祝賀会出席者八一人。

成聖式・祝賀会の直前には、念願の納骨堂開設について京都市から正式な許可書も交付され、喜びが加わりました。ダニイル座下はじめ実に多くの皆様の御教導があり、成し遂げられました。皆様に心より感謝申し上げます。

ここから、新たな一步の始まりです。信徒一同一致協力し、親しみやすい、居心地のよい温かな教会、宣教に積極的に取り組む教会をめざしましょう。幾歳も!

(及川記)



OSAKA

大阪生神女庇護聖堂 信徒會館 修復塗装

大阪教会では復活大祭(5月1日)後、6月19日の教区会議開催前までの完了を目標に、聖堂・會館の塗装工事に着手しました。比較的天候に恵まれ工事は順調に進み、一部を除き無事に終了し、教区内各地から集まった教区会議代議員の皆さんには、美しく塗り直された聖堂で、府主教座下ご司祷の聖体礼儀にあずかっていただくことができました。

この工事には、昨年行われた雨漏り防止のための屋根の防水工事に引き続き、建物側面からの浸水を防ぐ目的もあります。全面塗装工事は2004年以来12年ぶりです。また境内地の整美として、法面芝生部分の草刈り、枯死していた聖堂東側の桜の処分と生け垣の剪定も行われました。



OSAKA

光の子会

五〇年続く子ども会行事

八月六日、七日、大阪教会では恒例の夏子ども会行事「光の子会」が行われ、のべ一三人の子供たちが参加しました。六日の土曜日は、工作（敬老会のカード、糊と塩で作るスーパールール）のあと、晩課のお祈り。おいしい夕飯のあとはお楽しみの花火、さらに屋上で淀川の花火大会を見物しました。

七日は聖堂外で「聖体礼儀」についての紙芝居を見た後、聖堂に入り「主、憐れめよ」や「天にいます」「ハリストスの聖体を受け」を子供たちも歌いました。昼食後は境内地で水遊びにスイカ割り。楽しい一日を過ごしました。

大阪の「光の子会」は五〇年以上の歴史があります。昭和三七年青年会のメンバーの発案で日曜学校が始まり、当初は信者の子供たちの他に、近所の子供たちが五〇名以上が毎週やってきました。夏には青年会の合宿「修道会」の一部として「光の子会」が始まり、二泊三日寝食をともにし、正教の学びと親睦をはかりました。

(マリア松島記)



昭和38年の「光の子会」

写真提供は当時の日曜学校指導者の一人、ウエラ高橋美和子姉



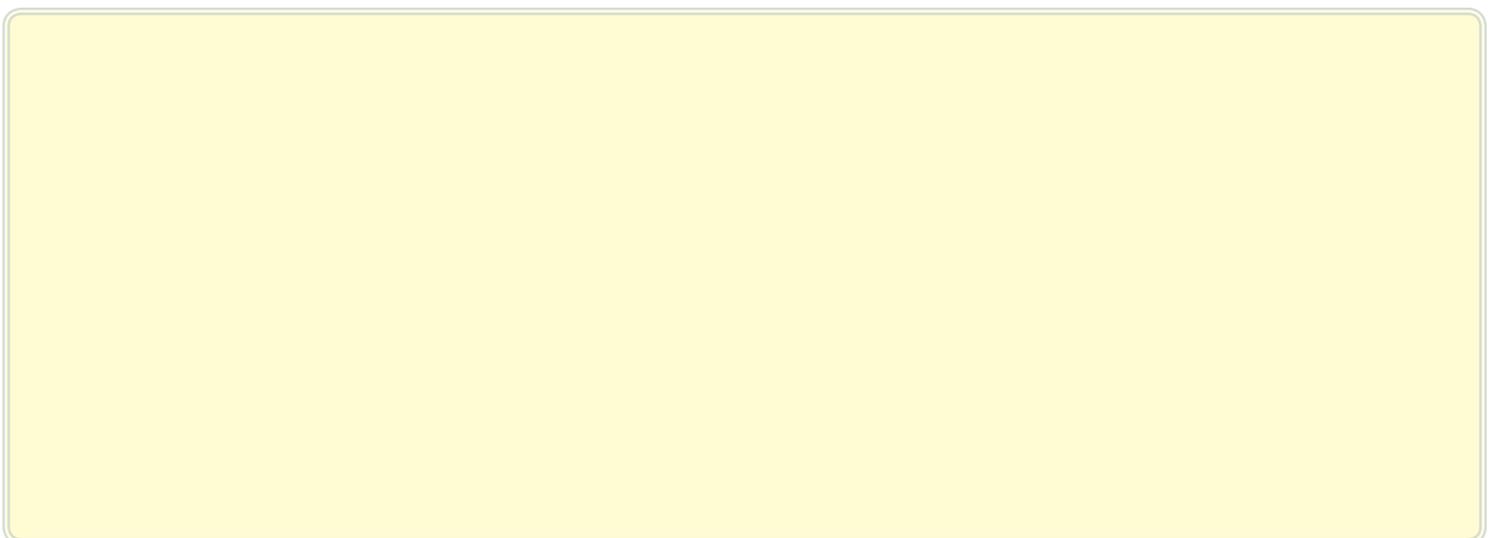
男性信徒会「ますらお会」大活躍。打ち上げパーティ



まず子供たちの合唱で開始



楽しい食事



西日本主教区主催 連続講演会報告 第一回から第四回

教区センターの完成を機に、センターの宣教への活用の一環として連続講演会を行っています。第一回は一月十一日に「シリアの聖イサアクの終末論、人は死後どうなるのか」と題して、第二回目は三月二十一日に「キリストの受難とともに、正教会の受難週礼拝」と題して、神戸教会のエフレム後藤神父が講演。第三回目は五月五日（木・祝）に「おいしいから！キリスト教徒にとつての『食べる』こと」と『食べないこと』と題して、七月十八日には「神はとらえがたい、正教神学の構え」と題して、大阪教会のゲオルギイ松島神父が講演しました。

第一回、後藤神父はイサアクの「同情のころ」をテキストに、死後の救いと裁きについてお話しされました。イサアクによれば、天国とは神の交わりをもつこと、神の愛に与ることであり、一方、地獄とは神の愛に与れないこと、神の愛を受け取れない苦しみです。神は愛のお方です。したがって、神は人が神に背いたからといって罰したり、報復したりすることはありません。天国にいる人にとつて、神の愛は喜びであるのに対し、地獄にいる人にとつては神の愛は受け入れられないという苦しみでしかありません。しかし神は地獄を更正の場としました。地獄はそこにいる人の悔い改めを通じて己を清めるための場です。神は私たちの過去を罰するためではなく、未来のために思いやっているのです。

後藤神父は第二回目の講演を、「受難週は

（復活）は終末を象っている。終末を覚えて、「目を覚ます」をことです」と始めました。受難週の体験は「主の十字架の愛と復活の喜びを自分のものとする」ことです。受難週は大きく前半と後半の二つに分かれ、前半の月曜、火曜、水曜は終末、再臨、またそれに備えてどのように痛悔するかがテーマです。後半はハリストスの受難、十字架、死、埋葬です。ハリストスのこの世での救いの計画が成し遂げられた時、来るべき世の生命が現れ、私たちは再臨に備えなければなりません。

受難週はそれだけで独立しているのではなく、四十日の大齋から続いており、大齋のテーマである痛悔は受難週前半に受け継がれています。受難週後半にはハリストスの復活への確信において十字架、死、黄泉下りが記憶されます。このように受難週は正教の基本およびその核心に迫る期間となっています。第三回目の講演で松島神父は、「食べる」ことについての正教会の伝統と意味をお話しされました。

西方キリスト教神学の基礎を築いたアウグスティヌスの回心のきつかけが「取りて読め」であるのに対し、東方正教会では「取りて食らえ」が信仰体験の中心にあるという違いがあります。正教会では「齋」が年間を通して設定され、肉や魚など特定の食べ物を避けます。逆に「食べる」ことでは、パニヒダの糖飯、変容祭の果物の成聖、復活祭の紅卵やクリーチなど正教会独自の食の習慣があり

ます。「食べる」こと また「食べないこと」を柱にして教会の信仰生活、礼拝生活リズムが与えられてきました。私たちに「食べる」という生命のかけがえが神から与えられる理由は「おいしいから！」に集約されます。つまり神は私たちに世界をごちそうとして、贈ってくださいました。ご聖体と同じく、日常の食事でも贈り物です。罪もまた食べてはならないものを食べることによって生じました。罪からの回復も「食べる」ことを神さまの贈り物として捉えるところから始まります。だからこそ、機密の晩餐で主は「取りて食らえ」と命じられたのです。

松島神父は、第四回目の講演で「否定の道」を中心として、「体験」と「伝統」を大切に正教会の精神性のユニークさを解説しました。正教神学はまず「否定」の道をとります。神は「〜ではない」という否定的表現の沈黙においてのみ神に出会うことができます。正教会では神学の問題を教義にすること避けてきました。教義は異端の出現においてやむを得ず定められ、他は言葉では表現されないと留保されてきました。だから正教会から見れば、西方キリスト教神学は明らかに「語りすぎ」です。カトリックの煉獄、マリアの無原罪懐胎、被昇天、カルヴァンの予定説などはすべてを厳密に解明しようという強迫観念の表れです。正教会は神の神秘については人



の言葉で論じられないとし、敬意ある沈黙を守ります。

いずれの講演も西日本主教区の信徒を中心にキリスト教他教派の方も含め毎回二十名以上の方が聴講しています。講演後の質疑応答も活発に行われており、外部宣教の意味でも、また信徒の信仰を豊かにする機会としても有益です。

なお第五回目と第六回目は名古屋教会司祭の私・伊藤が担当する予定です。

（伊藤記）

教区新刊書のご案内

トマス・ホプコ神父 正教入門シリーズ3『聖書概論、教会史』

西日本主教教区から、このたび「正教入門シリーズ3、『聖書概論・教会史』」が翻訳出版されました。本シリーズはすでに「奉神礼」(2009年)、「正教要理」(2012年)が出版され、教団内でも広く読まれています。本シリーズの著者は、ニューヨークの聖ウラジミル神学アカデミーの学長をつとめ2015年に永眠した首司祭トマス・ホプコ神父、訳者はイオアン小野神父(奉神礼)、ダヴィド水口神父(正教要理と聖書概論)、ゲオルギイ松島神父(教会史)です。



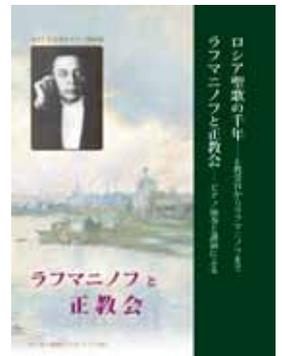
今回出版された「聖書概論」はコンパクトに旧約・新約の各書の内容が紹介され聖書を読み始めようとされる皆さんに、聖書の世界についての概観を与えてくれます。またすでに聖書に親しんでいる方々には、あらためて聖書の告げるメッセージを整理しなおす良い機会となるでしょう。「教会史」は使徒たちの教会が成立し、その福音伝道を開始した1世紀から20世紀まで、世紀ごとに正教会にとって大切な歴史的出来事や、神学、奉神礼、修道制などの流れが、わかりやすくまとめられています。同時期の西方教会の動向についても適宜紹介され、正教会だけではなくキリスト教世界の全体像に触れることもできます。

ほぼ三年おきに出版されてきた本シリーズ、残すところは第4の「正教の属神性(霊性・spirituality)」となりました。訳業は日頃の忙しさでなかなか進みませんが、皆様のご愛読が何よりの励みです。

教会への献金額は各管轄司祭にお訊ねください。

冬季セミナー2015 講演録『ラフマニノフと正教会』

昨年の冬季セミナーの講演録を配布中です。当日の講演を加筆修正し、当日はCDやピアノ演奏などの音源がありましたが、講演録では音源に頼れないので、イラスト、写真、楽譜などをたくさん掲載しました。マリア松島純子姉の『ロシア聖歌の千年』はロシアの正教受容からラフマニノフに至るロシア聖歌千年の歴史をわかりやすく解説しています。マトフェイ土田定克兄の『ラフマニノフと正教会』は熱心な正教信徒であったラフマニノフの人生、正教会の音、鐘、聖歌などをその作品の中に見、その信仰から彼の音楽を見てゆきます。



お勧めの本から

師父たちの食卓 イオシフ三木一

ヨベル社 ¥2200

イオシフ兄はイタリア出身で11年前にローマカトリックから帰正しました。現在半田教会で司祭の祝福のもと聖書を読み味わう会を主宰しています。

本書は創世記の1章から3章まで、その章句を一つ一つを順を追って味わ



い、聖師父たちの解釈を手がかりに思いを巡らせます。読んで行くにつれ、読者一人ひとりの心の深いところに隠されていた、忘れ去られていた、気になり続けていた体験や思いに、みことばの光が当てられ、その体験や思いに今まで気付いていなかった新しい意味を発見して行くことができます。学問的な注解書ではなく、著者が聖師父たちと食卓を囲んで、その味わいを自由に、伸びやかに、楽しく、またあるときは辛口に味付けして、ハリストスへの絶対の信頼の内に語り合っている、そんな本です。出版以来、口コミなどで順調に読者を増やし、教派を問わず多くのクリスチャンに正教会の「聖書とのつきあい方」について新鮮な驚きと感動を与えています。たとえば、…安息日の章句に触れて、著者は次のように言います。

自分が正しいと信じて疑わない人は休めません。自分の正しさを守らねばならないからです。復讐と言わないまでも仕返しをうかがう人は休めません。他人に自らを変えその過ちを認めるように要求する人は休めません。常に自分が向上しているかどうかを測る人は休めません。まして、他人と自分を比べる人は休めません。休むのはほんとうに難しい…」

ラフマニノフを弾け 土田定克

アルファベータブックス ¥2000

恩師のメルジャノフ教授の「ラフマニノフを弾け」ということばに従い、ラフマニノフを演奏し続けてきたマトフェイ土田兄の著書が出ました。土田兄はラフマニノフに出会ったことで、正教に導かれました。ロシア留学中の愉快的エピソード、またモスクワ音楽院



で出会った先生たちの深い洞察は音楽を越え、人生の深みにまで達します。マトフェイ兄は神から与えられた使命として真摯にラフマニノフに向き合い、演奏活動、後進の育成を続けておられます。

(松島記)

主教区活動のご案内

正教連続講座 13:00 - 15:00 西日本教区センター（京都教会内）

9月19日（月・祝）講師 司祭グリゴリイ伊藤慶郎

第5回「イエス・キリストとはいったい何者か」

11月3日（木・祝）講師 司祭 グレゴリイ伊藤慶郎

第6回 内容未定

3月20日（月・祝）

第8回 講師 神戸市立外国語大学教授 イーゴリ清水俊行

松山ロシア人兵士墓地慰霊祭（教区後援）

11月3日（月・祝） 11:00（現地集合）

グリゴリイ小川公 神父による墓前パニヒダ

広島地区宣教祈祷集会－聖体礼儀と懇談会（教区後援）

11月23日（水・祝）10:00～ 於：広島市袋町学区会館（広島市中区国泰寺町 1-3-31）

広島地区の皆様には追って詳細を連絡します。

他の地区の教会の信徒の皆さんのご参加も歓迎です。（大阪教会、松島神父まで）

北九州 聖歌学びの会

1月9日（月・祝）13:00～福岡伝道所（参加希望者は京都教会、及川神父まで）

冬季セミナー

1月29日（日）大阪教会 13:30～ 内容、講師未定

その他の行事

京都生神女福音大聖堂「文化財特別公開」

10月28日（金）～11月7日（月）9:00～16:00

入場料大人800円（中高生半額・小学生以下無料）

主催：公益財団法人 京都古文化保存協会 後援：京都府・京都市

主催：京都ハリストス正教会 協賛：朝日新聞社



いくとせも

八月末から京都にて研修後、九州地区の副司祭として牧会・宣教に努められます。

七月一七日にはエウドキア渡辺弥生さんと婚配、二四日に輔祭叙聖され、一週間後に司祭叙聖となりました。

入学されました。

七月三一日（日）、神学校を卒業したワシリイ杉村太郎師は、東京復活大聖堂にて、ダニイル府主教座下の按手を受け、司祭に叙聖されました。師は上智大学神学部大学院で学ばれ、高崎教会でステファン桑原神父の薫陶を受け、三年前に神学校に入学されました。

西日本主教区に新司祭
ワシリイ杉村太郎司祭